

雲取山山行報告



【山行日】2017年 10月 26(木) 快晴
【集 合】岩舟支所P AM 4:00
【費 用】マイカー1台 : 3,000円
【メンバー】CL:鈴木、伊藤、稲村、小松原、田中
【コースタイム】岩舟支所 P4:00＝小袖登山口
P6:20/6:30～堂所 8:20～七ツ石小屋 9:10/9:20～
七ツ石山 9:40/9:50～奥多摩小屋 10:20/10:30～
雲取山避難小屋 11:20～雲取山 11:30/12:10～
七ツ石山分岐 13:10～堂所 14:10～小袖登山口P

15:15/15:30＝岩舟支所 P18:10

雲取山に日帰りで登りたいというリクエストがあり、登山口を検討し小袖登山口から登ることにする。初めて雲取山に登ったのは30年前。鴨沢から登り、雲取山荘に宿泊して三条の湯経由でお祭りに下った。現在は鴨沢から車で5分くらい上がった小袖に、村営駐車場が整備され多くの登山者が利用している。今日も平日の早朝にもかかわらず、我々が着いた時にはほぼ満車状態になっていた。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。駐車場を出て車道を左に進むと、まもなく左側に登山口のハデな案内板がある。2017mの雲取山は、2017年の山として今年には人気の山らしい。ハデな案内板がある登山口から、左の坂道を登ると畑の跡や廃屋を経て水場に出る。植林帯のゆるやかな登山道を登り、尾根筋に出た所が堂所で小休止する。オレンジや菓子を食べて、水分とエネルギーを補給する。ここから緩やかな尾根道を登って行き、右に折り返すと急登となり、やがてブナ坂と七ツ石山の分岐に出る。右の七ツ石小屋方面に進めば、ほどなく七ツ石小屋に着く。小屋の奥の広場では大勢の登山者が休んでおり、富士山をバックに記念写真を撮っている。富士山は昨日降った雪で真っ白に雪化粧しとても素晴らしい。我々も富士山をバックに記念写真を撮り、富士山を眺めながらゆっくりと休憩する。一休みしたら小屋の左側から山道を登り、すぐに巻道を左に分け一登りで石尾根縦走路に出る。縦走路を左に進み、防火帯の広い登山道を登ると七ツ石山山頂に着く。山頂は広く花崗岩のモニュメントのような標識が立ち、富士山やこれから登る雲取山の眺望が素晴らしい。眺望を楽しみ記念写真を撮ったら山頂を後にする。ここから雲取山までは、開けた防火帯の尾根道の爽快な登山を道歩いて行く。



ここから雲取山までは、開けた防火帯の尾根道の爽快な登山を道歩いて行く。

この秋一番の晴天に恵まれ、富士山を見ながら歩け「来て良かった～～」と皆満面の笑みで喜んでいた。楽しい尾根歩きは疲れも感じず、アツと言う間に奥多摩小屋に着いた。こここの天場からの



富士山が素晴らしく、奥多摩小屋に泊ってのんびり登るのも良いのかなと思った。ここからも明るい尾根道を進み、富田新道への巻道を分け急登すると小雲取山だ。カラマツの紅葉に囲まれた尾根を進み、雲取山荘への巻道を右に分け、ジグザグに急登すれば雲取山山頂に着く。

山頂直下の雲取山避難小屋に寄り、小屋の中を見てから山頂に行く。山頂は大勢の登山者で賑わっており、写真を撮るのも順番待ち。

写真を撮ったら三角点の脇に陣取り、ランチタイムとする。

本日の山ご飯は塩ラーメンだ。富士山を見ながら、キャベツとネギをたっぷり入れた塩ラーメンとアンパンを食べ至福のひと時。お茶を飲みながら、ゆっくり展望を楽しんだら下山する。

下山は来た道をブナ坂の分岐まで戻り、分岐からは巻道を下りて行く。巻道を登って来る登山者がまだまだ多く、大勢のパーティーとすれ違う。巻道は自然林の中を歩き、紅葉が丁度見頃で楽しく歩ける。七ツ石小屋への分岐を過ぎ、マムシ岩から先は植林帯となり薄暗い登山道を黙々と降りて行く。途中堂所で最後の休憩を取り、リンゴや菓子を食べてエネルギーを補給する。ここから1時間程下ると登山口に到着、林道を歩いて駐車場に戻って驚いた。車が溢れており、駐車場の真ん中や入口、道路の路肩まで止められていた。



やはり雲取山は2017年の山なので、これほど人気があるのかなと思った。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につく。帰る途中の奥多摩湖でドラム缶橋を確認し、11月に計画した三頭山の下見をする。帰路は青梅市内で若干混雑したが、圏央道は順調に走り予定より早く岩舟支所へ帰着出来た。